

平成30年度 事務事業評価シート(実施計画事業・経常事業)

事務事業名		広報等作成事業				担当部	市長公室	担当課	広報広聴課	担当係	広報係					
実施計画	3	年目														
新基本計画	市政戦略編	○	分野別計画編	7	自治体経営	31	行政運営	1	情報の共有化を推進します							
予算区分	一般会計		款	2	総務費		項	1	総務管理費	目	5	広報広聴費	大	3	中	1
根拠法令・個別計画	①	小牧市広報発行規則			②							③				
目的	何(誰)を対象に	市民														
	どのような状態にするか	小牧市の各種施策や計画についての説明や行事等の情報を提供し、行政に対する理解と協力を得る。														
手段	どのような事業を実施するか	<ul style="list-style-type: none"> ・広報こまき、市政カレンダー、転入者向けの市政案内としてくらしのガイド(隔年)、市の魅力や施策を紹介する市勢要覧(隔年)などを作成し、市政情報の提供を行う。 ・市政、各種事業、サービスなどの情報を的確に提供するため、毎月2回(1日号と15日号)広報こまきを発行する。 ・市民活動団体に広報こまきの一部(くらしの掲示板、市民の情報交換のコーナー)の作成を委託し、市民との協働による広報紙づくりを進める。 ★こどもレポーター事業 <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動団体との協働で「市民レポーター」の取材による広報紙面への掲載を行い、より市民に身近な広報紙となるよう努める。また、「市民レポーター制度」の夏休み特別企画として、子どもたちが「こどもレポーター」として市内各所を取材し、広報こまきに掲載する。 ★こども広報作成事業 <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学4年生から中学生までを対象に、こども向け広報紙を作成・配布する。(年2回、夏頃と冬頃) 														
	事業内容															
事業の概要	28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・広報こまきを毎月2回発行した。(印刷費:75,464千円 平均発行部数:57,395部) ・市政カレンダーを発行した。(印刷費:4,147千円 57,000部) ・市の魅力や施策を紹介する市勢要覧を発行した。(印刷費:1,710千円 1,200部) ・市民活動団体に広報こまきの一部(くらしの掲示板、市民の情報交換のコーナー)の作成を委託し、市民との協働による広報紙づくりを進めた。(委託料:2,882千円) ・定住促進プロモーションパンフレットを発行した。(印刷費:820千円 20,000部)また、移住交流フェアに参加し、市の魅力をPRした。 ★市民活動団体との協働で「市民レポーター」の取材による広報紙面への掲載を行い、より市民に身近な広報紙となるよう努めた。また、「市民レポーター制度」の夏休み特別企画として、子どもたちが「こどもレポーター」として市内各所(FDA、愛知ヨーク、市温水プール)を取材し、広報こまきに掲載した。(委託料:2,998千円) 														
	29年度	<ul style="list-style-type: none"> ・広報こまきを毎月2回発行した。(印刷費:70,240千円 平均発行部数:57,866部) ・市政カレンダーを発行した。(印刷費:4,197千円 58,000部) ・転入者向けの市政案内としてくらしのガイドを発行した。(印刷費:2,484千円 10,000部) ・市民活動団体に広報こまきの一部(くらしの掲示板、市民の情報交換のコーナー)の作成を委託し、市民との協働による広報紙づくりを進めた。(委託料:2,882千円) ★市民活動団体との協働で「市民レポーター」の取材による広報紙面への掲載を行い、より市民に身近な広報紙となるよう努めた。また、「市民レポーター制度」の夏休み特別企画として、子どもたちが「こどもレポーター」として市内各所(歴史館、エースペーカー、福玉倉庫)を取材し、広報こまきに掲載した。(委託料:3,200千円) ・定住促進ポスターを名鉄小牧線車両ドア横に掲示し、市の魅力をPRした。(広告料:689千円)また、移住交流フェアに参加し、市の魅力をPRした。(8/25、8/26) 														
	30年度	<ul style="list-style-type: none"> ・広報こまき、市政カレンダー、市勢要覧を作成し、市政情報の提供を行う。 ・市政、各種事業、サービスなどの情報をいち早く的確に提供するため、毎月2回(1日号と15日号)広報こまきを発行する。 ★市内小学4年生から中学生までを対象に、こども向け広報紙を作成・配布する。(年2回、夏頃と冬頃) ・市民活動団体に広報こまきの一部(くらしの掲示板、市民の情報交換のコーナー)の作成を委託し、市民との協働による広報紙づくりを進める。 ★市民活動団体との協働で「市民レポーター」の取材による広報紙面への掲載を行い、より市民に身近な広報紙となるよう努める。また、「市民レポーター制度」の夏休み特別企画として、子どもたちが「こどもレポーター」として市内各所を取材し、広報こまきに掲載する。 ・刊行物の発行にあたり、取材・編集・校正・チェック及び関係課との調整を行う。 ・定住促進ポスターを名鉄小牧線車両ドア横に掲示し、市の魅力をPRする。 														

事業費	財源内訳(千円)	H28		H29		H30
		当初予算額	決算額	当初予算額	決算見込額	当初予算額
		合計				
	国支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源	95,744	87,259	95,863	87,953	97,660
	特定財源の説明					
事業費内訳(千円)	細々節	H28		H29		H30
		当初予算額	決算額	当初予算額	決算見込額	当初予算額
		市長対談謝礼				
	市長対談謝礼	8	6	8	8	8
	広報作成支援謝礼	40	10	40	—	40
	特別旅費	85	81	85	81	85
	消耗品費	659	462	600	283	600
	食糧費	2	1	2	1	2
	印刷製本費	82,400	75,464	83,000	76,920	82,000
	修繕料	80	78	80	—	80
	通信運搬費	168	90	139	49	139
	広告料	—	—	723	689	854
	ビデオ記録撮影委託料	817	734	797	766	797
	航空写真撮影委託料	864	842	1,200	1,080	1,200
	広報紙発送委託料	467	394	417	394	403
	広報紙市民協働作成委託料	3,876	2,882	3,876	2,822	3,876
	市民レポーター制度実施委託料	3,000	2,999	3,200	3,199	3,200
	市勢要覧作成委託料	1,800	1,711	—	—	—
	こども広報作成委託料	—	—	—	—	2,771
	電子計算機借上料	1,335	1,334	1,335	1,334	1,542
	業務用備品購入量	80	—	190	156	—
	研修会負担金	63	63	63	63	63
	移住交流フェア参加負担金	0	108	108	108	—
従事者数	正職員(人数)	5	5	4	4	4
	その他職員(人数)	0	0	1	1	1

業績	ステップ I	事業の成果指標		単位	H26	H27	H28	H29	H30	
		①	広報こまき平均発行部数	部	目標	56,000	57,500	57,500	57,500	58,000
					実績	56,858	57,074	57,395	57,866	
②	こどもレポーター(小学生)参加人数		目標	—	—	10	10	10		
			実績	—	—	14	14			
業績	ステップ II	事業の活動指標		単位	H26	H27	H28	H29	H30	
		①	広報こまき平均発行回数	回	目標	24	24	24	24	24
					実績	24	24	24	24	
②			目標							
			実績							
事業の目標達成状況とその要因、実績増減の要因										
	H29実施結果	世帯数の増加に比例し、広報こまきの平均発行部数が増加している。今後も世帯数の増加に応じて微増する見込みである。 こどもレポーターについては、10人程を想定していたが、H28,H29とも14人の参加があった。								
今後の見直し、要因を踏まえた事業の見直し										
	H29実施結果	単に広報こまきが手元に届くだけでなく、しっかりと情報が市民に届くよう、掲載内容の充実を図るとともに、より見やすく読みやすい広報づくりに努めていく。 ・こどもレポーターについては、前年度経験者が再度応募してくるなど、参加者にも概ね好評である。今後も学校を通じて周知を図り、事業を進めていきたい。								

事業の評価	事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの
	判定理由	<ul style="list-style-type: none"> 市民が市政情報を得ることは、パブリックリレーションズの本旨である「市民と行政の良好な関係の構築」のために必要不可欠であり、事業の現状維持は必須である。なお、事業内容の充実や対象・手段の見直しは必要に応じて行っていく。 こどもレポーターについては、「こども夢・チャレンジNo.1都市」の実現に向けて、こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業の一つとして現状維持すべきと判断した。 	